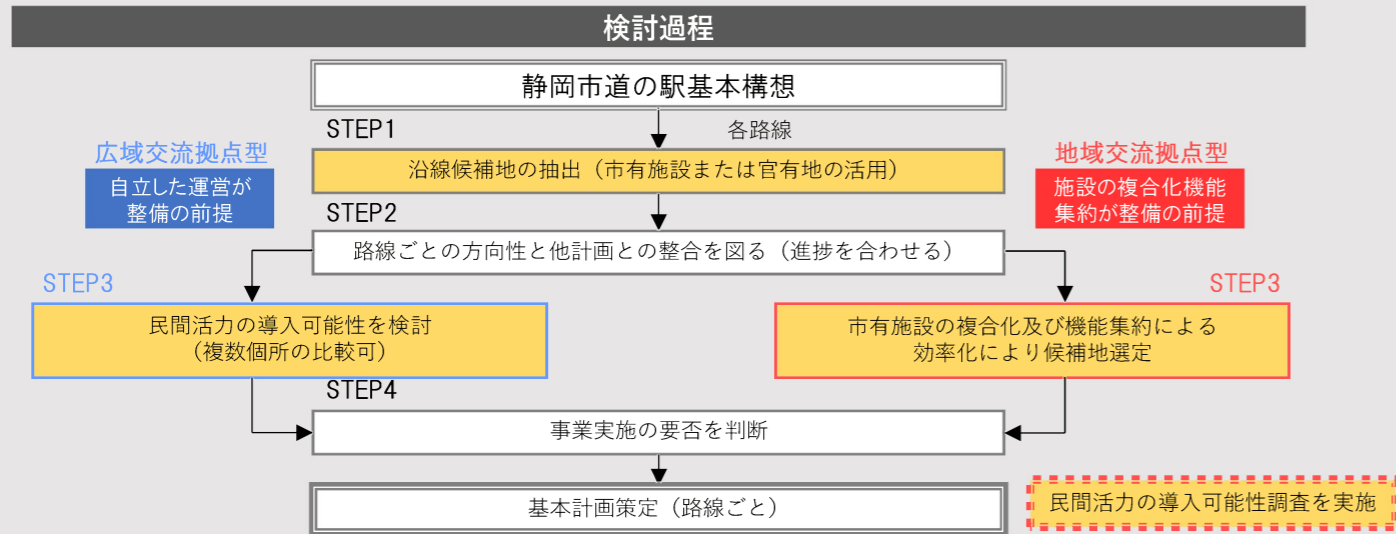


(2) 実施箇所を決めるまでの検討過程

整備を検討する6路線について、今後「基本計画」の策定作業に至るまでの検討過程を下の図のとおり整理しました。
 検討過程では次の点を重視しています。

- ・総資産量の適正化（既存施設を積極的に活用する）
- ・コンセプトや基本方針と合致する計画がある
- ・民間活力の導入（民間資本での成立性を検討する）

- 静岡市アセット
マネジメント
基本方針
- ① 総資産量の適正化
 - ② 長寿命化の推進
 - ③ 民間活力の導入



5 あるべき道の駅の姿は？ ③ 路線ごとの道の駅の方向性を示しました (本編 第5章)

各路線の特徴をもとに、今後路線ごとに検討を進める際の方向性を示しました。
 現時点で考える方向性で、詳細については、「基本計画」で明確にしていきます。

広域交流拠点型	国道1号 中部5市2町のゲートウェイ 東海道二峠六宿を活用した交流拡大 ・東西交通の大動脈 ・静岡市さらには中部5市2町のゲートウェイ ・道の駅が、海洋文化拠点清水港、国道1号、旧東海道をつなげ、市内周遊を円滑化	地域交流拠点型	国道52号 甲信越とつながる歴史の道 ・古くから甲信越地方とつながる道 ・中部横断自動車道の開通で交通量の減少が見込まれ、沿道地域が衰退しないよう生活利便性の確保や新たな機能を持たせていく必要がある
	国道150号 市内周遊の円滑化、 観光資源を活かした交流拡大 ・重要な観光資源(登呂エリア、日本平久能山エリア、三保松原エリア、清水港)を結ぶ路線 ・静岡ICに加え、日本平久能山スマートIC開設により、道の駅が市内周遊を円滑化		国道362号 中部5市2町へつながる山間の道 ・既存のバスターミナルや道路休憩施設が点在し、必要機能は最低限確保されている ・人口減少・少子高齢化に備え生活利便性の確保が必要
	主要地方道 清水富士宮線 清水港後背地における交流拡大 ・東西南北に強力な広域道路ネットワークを持つ、中部地方の主要な交通結節点 ・清水港後背地での観光・農林水産物・物流を活かした地域経済活性化の方向性を検討		主要地方道 井川湖御幸線 オクシズにも都心にもアクセスできる結節点 ・新静岡インターチェンジからオクシズにも静岡都心・東静岡副都心にもアクセスが可能 ・道の駅で、地域交通拠点など機能集約と、オクシズの資源を活かした広域交流機能も可能

6 今後の進め方

今後、この基本構想に基づき、実施を検討する具体的な候補地を決め、「〇〇地区基本計画」の策定に入ります。候補地に対して、その地域の魅力や課題、道の駅に導入する機能について、より詳細に検討を行います。
 その際には、地域にお住まいの皆様や活動されている団体など、広くご意見を伺い、議論を重ねることで、より良い道の駅を計画していきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。



静岡市道の駅基本構想 【概要版】

— 令和元年8月策定 —

道の駅制度が創設されて25年が経過しました。創設当初は、トイレ・売店・道路情報といった通過するドライバーへのサービス提供を目的とした「道路休憩のための施設」でしたが、近年では、農産物の加工所(6次産業化)や子育て支援、移住窓口の設置など地域振興を目的とする多様な施設が併設され「地方創生の拠点」として道の駅は進化を続けています。

現在、静岡市は、人口減少・少子高齢化に伴う活力低下に立ち向かい、未来を切り開くべく第3次総合計画を推進しています。このような状況の中で、静岡市にとって道の駅は、地方創生の重要な役割を果たす施設(手法)と考えております。

そこで、このたび「静岡市道の駅基本構想」を策定し、本市の強みを活かし、様々な課題に対応する道の駅を計画・整備・運営していくための“あるべき姿”を描きました。



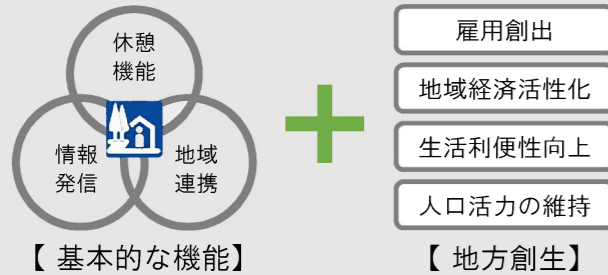
静岡市

静岡市 建設局 道路部 道路計画課

1 地方創生の手法の一つとして道の駅を位置付けました（本編 第1章～第3章）

(1) 変化を続ける道の駅

道の駅は「休憩・情報発信・地域連携」の3つの基本機能で構成されますが、近年では地域の創意工夫を凝らした魅力ある機能を加えることで「地方創生の拠点」として役割を果たす施設に変化しています。



(2) 基本構想=新たな道の駅をつくるための指針

人口減少に伴う様々な問題に立ち向かうため、第3次総合計画や総合戦略を推進している本市にとって、「道の駅」という施策は、地方創生に貢献する大変有望な手法だと考えています。

そこで、“どのような道の駅が本市に必要なのか”、今後、計画→整備→運営と検討を進める際の指針が必要になるため、このたび「静岡市道の駅基本構想(案)」を取りまとめました。



2 こんな道の駅にしたい！(3) コンセプトと基本方針を定めました（本編 第4章）

(1) コンセプト…静岡市が目指す道の駅を一言で表現したキャッチフレーズ

コンセプト	しずおかの“イキ”が集まる道の駅
行き交う(交流)	東名高速道路・新東名高速道路・中部横断自動車道の広域道路網を有効に活用する
行き先(目的地)	しずおかの魅力的な資源を磨きあげて、みんなが集まる新たなスポットにする
広域	しずおか中部連携中枢都市圏を牽引する都市として、周辺エリアへも効果を波及させる
地域	少子高齢化に立ち向かう活力のあるコミュニティを形成する
活き	新鮮な海の幸、山の幸を魅力的な静岡ブランドに仕上げる
粋	今川や徳川、東海道の育まれた独自の文化や伝統の粋を見せる
生きがい	いつまでも元気に健康に「健康長寿世界一」を目指す
生きる	大規模災害から人命を守る。人だけでなく自然も守り、豊かな環境を後世に引き継ぐ

(2) 基本方針…コンセプトを達成するため、今後の検討の軸になる6つの方針

第3次総合計画の2つの目標「都市の発展」「暮らしの充実」に沿った4つの基本方針と、計画から運営まで道の駅を組み立てていく「つくり方」で留意する2つの基本方針。

「創造する力」による都市の発展(産業・経済の振興)

- 基本方針1：市内外からヒト・モノを呼び込み、送り出す交流拠点
- 基本方針2：しずおかを発信する基地

「つながる力」による暮らしの充実(安心・安全の確保)

- 基本方針3：誰もがまた来たくなる場所
- 基本方針4：困ったときに誰もが頼るよりどころ

道の駅をつくるにあたって留意すべき基本方針

- 基本方針5：みんなで支える工夫の結集地点
- 基本方針6：新しい発想の創出地点

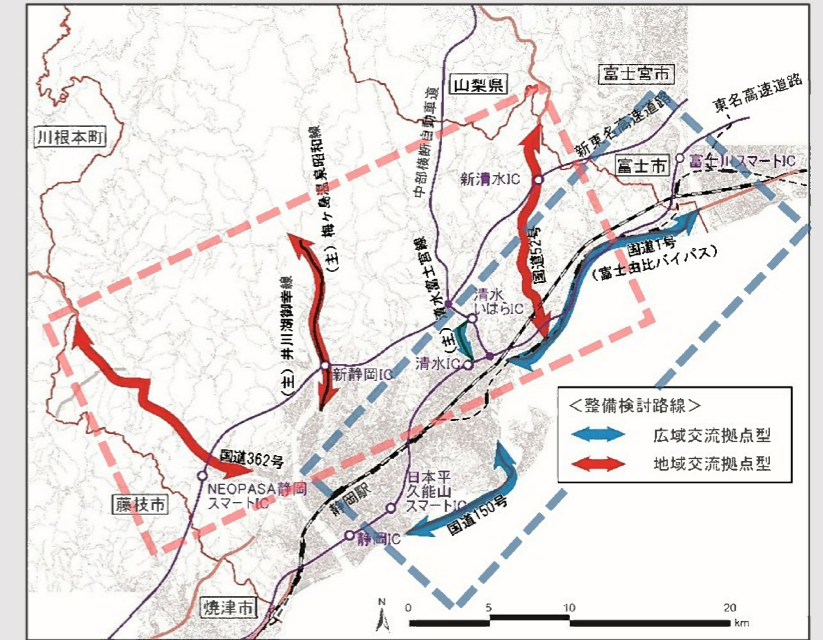
【必要な機能】

- 静岡市の強みを活かす
 - 観光総合窓口
 - 地域観光・インハウッド観光
 - 地域間の交流・連携
- 静岡市の課題を解決する
 - 産業振興
 - 地域福祉
 - 地域交通拠点
 - 地域防災
- みんなで支えるフレームづくり
 - 産学官金民連携

3 どこにつくるのが効果的か？(3) 整備を検討する路線を選びました（本編 第5章）

道の駅の機能を最大限発揮できる路線を、次の4つのステップにより抽出しました。

- STEP1: アクセス
 - 広域的な道路ネットワーク
 - 一般国道、主要地方道、一般県道【38路線】
- STEP2: 防災
 - 災害時に機能を発揮する
 - 緊急輸送道路【17路線】
- STEP3: まちづくり
 - 将来都市構造との整合(都市計画マスタープラン)
 - 都市構造軸の「産業軸」「観光・交流軸」、「地域交通結節点」の設置を検討する路線【9路線】
- STEP4: 渋滞回避
 - 交通渋滞発生エリアの除外
 - 静岡県道路交通渋滞対策推進協議会が設定する渋滞エリアにかかる路線・区間を除外【6路線】



整備を検討する路線 6路線
 国道1号、国道52号、国道150号、国道362号
 主要地方道井川湖御幸線(梅ヶ島温泉昭和線)、主要地方道清水富士宮線

4 ターゲットは誰か？(3) 特徴別に路線を2つに分けました（本編 第5章）

(1) 「広域」と「地域」2つのターゲット

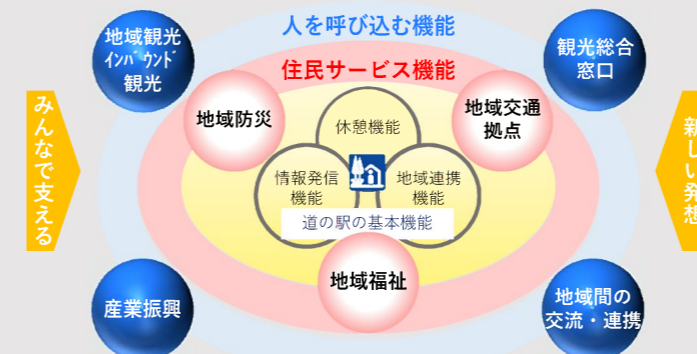
右上の地図のとおり、に囲まれた「人を呼び込む機能」が強い3路線(広域交流拠点型)とに囲まれた「住民サービス機能」が強い3路線(地域交流拠点型)に分類し、それぞれターゲットを定めました。なお、これはあくまで“主な”ターゲットです。どちらも広域・地域の両側面を持ち合わせています。

広域交流拠点型 (人を呼び込む機能が主)

対象: 国道1号、国道150号、主要地方道 清水富士宮線

ターゲット: 広域で移動する観光客や長距離ドライバー

イメージ:



特徴

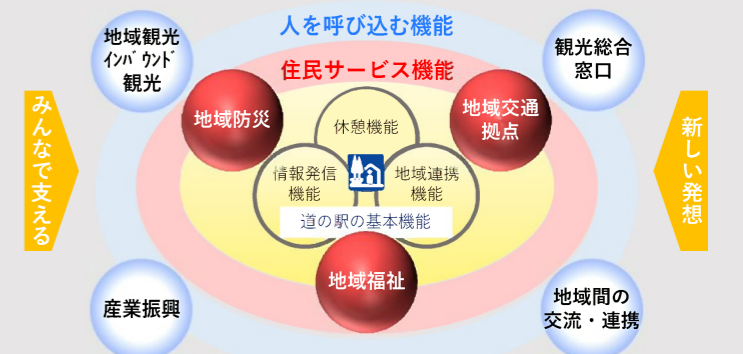
- 道路ネットワークに恵まれ、産業・観光など地域資源も多く、広域から人を呼び込む力が強い。
- 収入が見込めるため民間活力の導入が可能と考えられ、自立した運営ができる。

地域交流拠点型 (住民サービス機能が主)

対象: 国道52号、国道362号
主要地方道 井川湖御幸線(梅ヶ島温泉昭和線)

ターゲット: 道の駅周辺で生活する地域住民

イメージ:



特徴

- 都心と中山間地を結ぶ路線で、中山間地が抱える課題を解決する機能を充実させ、生活利便性を向上させる。
- 収益性に劣るため、財政負担が必要。市有施設の複合化や集約化による効率化が必要。